

委員会では議会閉会中も暮らしやすい町づくりに向けて調査・研究をしています。
なお、詳しい内容は播磨町議会ホームページの委員会報告書をご覧ください。

委員会報告書はこちらから

総務建設

消防播磨分署の隣接土地購入

■8月17日開催

土地所有者から土地買取希望申出書が提出された加古川市東消防署播磨分署に隣接する土地約1140平方メートルを町が購入するとの報告を受けた。立地条件と加古川市消防本部の意見も確認した上で、防災、消防活動に有効利用できる土地であると判断し取得する。財源は緊急防災・減災事業債を活用する予定であり、購入後、現在ある建物を解体し更地の状態で引き渡しを受ける予定である。

災害発生時における緊急消防援助隊の進出拠点としての活用や平常時には消防職員や消防団員が訓練を行うための用地として活用する予定である。


購入予定地

給水車の導入

災害時の応急給水体制を強化するため、給水車を購入する。

このたび、全国的な給水車の需要増加により、メーカーの納期が約1年6か月に長期化していることが判明した。そこで、当初の計画を変更し、給水車の早期確保をするため、令和9年度中の導入を目指す。

財源は、新たに創設された防災対策事業債に係る公営企業債を活用する予定である。

厚生教育

民生委員・児童委員とは

■6月18日開催

当委員会から播磨町の民生委員・児童委員制度および現状についての説明を依頼し、説明を受けた。

民生委員・児童委員は、地域住民の立場に立って相談に応じ、必要な支援へつなぐ「身近な相談役」である。

近年は、児童虐待、不登校、貧困、ヤングケアラー、発達特性への支援など、子どもや家庭を取り巻く課題が複雑化しており、地域の身近な相談相手として、行政や学校、福祉機関との橋渡しを行い、子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを支える重要な役割を担っている。

播磨町は、担い手不足解消に向けた取り組みとして、欠員地区の自治会との情報交換、民生委員・児童委員活動の情報発信や周知啓発を行っている。活動の効率化と負担軽減として、民生委員・児童委員の業務の整理、民生委員・児童委員が相談を抱え込まないよう、町の保健師などの専門職との情報交換による支援の充実、ICTを活用した事務負担の軽減と情報共有の円滑化を検討している。

【主な質疑応答】

問　担い手不足解消に向けた取り組みで、民生委員・児童委員の業務の整理とあるが、仕事の分別をするのか。

答　心配事や困り事を民生委員・児童委員に解決してもらうのではなく、適切な所につないでいただくということである。

最終的な解決に向けての制度の説明や支援は、町の専門職や福祉事務所が行うというように役割分担をしっかりと行うことで負担に感じられないよう支援する。

また、日々の活動の中で困ることや、質問を受けるような内容については、活動のQ&Aというものを作成して全ての民生委員・児童委員に配っている。

〔その他〕

◆播磨中学校屋内運動場大規模改造工事

◆蓮池小学校南校舎大規模改造工事

■7月13日開催

中学校の部活動地域展開「危機管理マニュアル」策定

播磨町では、令和8年度から令和10年度を部活動地域展開完全移行期と位置付け、令和8年4月1日に「播磨町地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」を施行した。

クラブ活動を推進していくに当たり、生徒の輸送についてのルールを早急に策定する必要があり、生徒輸送を含めた危機管理マニュアルを策定する。

【主な質疑応答】

問　団体種目など全体での移動や個人で県大会・全国大会などに行く場合の移動は。

答　原則移動については、公共交通機関を利用する。

北播磨や西播磨などで開催する大会もある。その場合はレンタカーを借りるか、公共みどりナンバーのバスを借りて学校から行く方法を基本としているが、どうしても行けない場合は、指導者もしくは保護者が送迎する選択をするようになる。

個人の車で送迎する場合は、安全管理チェックシートをクラブ代表者、もしくは運営団体に提示した上で運転するよう義務付けも行う予定である。

〔その他〕

◆施設の指定管理者の募集

◆播磨町学童保育所指定管理者の募集

■8月17日開催

物価高騰対応中高生世代応援給付金事業

国の補正予算による物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して実施する。

物価高騰の影響が長期化し、その影響がさまざまな人々に及ぶ中、教育費などの負担が大きい中高生世代の子どもを養育する世帯を経済的に支援する観点から、中高生世代の子ども1人当たりに6000円を支給する。

令和8年9月1日の基準日時点で、町内に住所を有する中高生世代の保護者が対象となる。

令和8年10月下旬頃に児童手当等の受給口座を利用したプッシュ型での給付を予定している。

〔その他〕

◆蓮池小学校学童保育所新築工事

◆電力地産地消事業の進捗状況

行政視察

■7月9日京都府精華町

字幕表示システム「Cotopat」について

「Cotopat」とは、音声をリアルタイムで認識し、字幕として表示するシステムである。文脈から同音異義語や区切りを適切に補正し、変換精度の向上を図っている。

また、会話に合わせて図解や動画をスクリーンやタブレットに表示することで、言葉だけでは伝わりにくい情報を分かりやすく伝達することができる。

さらに、多言語の翻訳表示に対応しており、発話者の言葉を翻訳して表示する。

改正障害者差別解消法の施行や高齢化の加速などの社会環境の変化に柔軟に対応し、誰一人取り残されない共生社会の実現を目指し、より多くの人々のコミュニケーションに役立つソリューションであると理解した。

視察後に、委員会で振り返り、播磨町の住民福祉の向上につながればと協議を行い、9月2日に委員会として、佐伯町長へ提言書を提出した。



町へ提言

■7月10日愛知県岡崎市

校内フリースクール「F組」について

校内フリースクール「F組」の始まりは、不登校の増加にあり、学校の「適応指導教室」でも居づらさを感じ、学校に居場所がなくなってしまうといった実態があった。民間のフリースクールも増えているが、さまざまな理由で通えないケースもあり、学校に「フリースクール」をつくるというところから出発した。

登校できない子と捉えるのではなく、「特性に応じた学びの場が必要な子」として捉え直すなど、これまでの価値観を大きく変える必要がある。

学び（学ぶ時間）は自分で決めるようにする。決められない子には、選択肢を示して、決めていくようにする。自分で決めたと思えるような小さな成功体験で自己肯定感や、自己調整力を養えるよう工夫している。

また、5教科だけでなく、体育、音楽、美術なども行い、学ぶ内容も子どもの状況に合わせて行なっている。ゲームなどを通して仲間との交流を広げたり、コミュニケーションを図る機会を設けている。時には地域の人ともふれ合う機会を持つことで、自発的に他者と関わることができてきた。

F組の理念は、適応するのは子どもではなく学校である・多様性を受け入れられる学級・いつでも子どもたちを温かく迎える体制・通常学級と同じ一つの学級として扱う・教室復帰ではなく社会的自立を目指すことである。

子どもを支える教師やスタッフの心の広さや温かさが子どもを救っていると感じた視察であった。

【主な質疑応答】

問　教室に行きづらい生徒のうち、F組に通っている生徒の割合は。

答　長期欠席者の総数に対して、7割ぐらいの生徒が通えている。


先進地へ視察